

## <岡山県真庭市の取組>

### 【統合による魅力ある学校づくりの取組モデル】

#### ○統合に当たり地域参画型の準備委員会を設置した例

## 1. 市町村の概要

◆人口：46,520人（平成29年12月1日現在）

◆小学校：24校，児童数 2,255人 ◆中学校：6校，生徒数 1,136人

※学校数，児童生徒数は平成29年5月1日現在

### ◆市町村全体の学校の統合・存続の状況

本市では，児童生徒数の動向や施設の状況等を踏まえながら，将来を見据えた学校の「適正配置」を検討するため，「真庭市学校整備推進委員会」に諮問を行った。その後，平成22年1月に当該委員会から「真庭市立小・中学校の適正配置について」答申が提出された。答申を受け，「真庭市立小・中学校の適正配置実施計画策定会議」を立ち上げ，平成23年1月に「真庭市立小・中学校適正配置実施計画」を策定した。この計画に基づき，平成23年度には津田小学校に上田小学校を，同じく美川小学校に別所小学校を，平成25年度には皆部小学校に阿口小学校を，平成26年度には落合小学校に津田小学校を，平成28年度には勝山中学校に美甘中学校を吸収統合した。

## 2. 研究タイトルと研究課題

### ◆研究タイトル

- ・地域参画で進める新しい子育て教育環境の創造

### ◆研究課題

- ・統合後の学校が新たな学区の地域コミュニティの核として高い教育機能を発揮するための方策に関する研究
- ・長時間通学や，通学へのスクールバス・交通機関等の導入に伴う課題の解消に関する研究
- ・統合を契機とした魅力的な学校づくりに関する先進的な取組

## 3. 調査研究対象校の状況

### ◆調査研究対象校

真庭市立中津井小学校（39人，通常の学級4学級，特別支援学級1学級）  
真庭市立皆部小学校（36人，4学級） 真庭市立上水田小学校（82人，6学級）  
真庭市立水田小学校（59人，6学級） ※平成29年5月1日現在

### ◆調査研究対象校を統合することとした背景・理由

- ・地域の人口及び児童数減少が進み，人口推計上も数年後の学校維持が困難となることが明らかであり，小学校の適正規模化を図る必要があったため。
- ・小学校，こども園，放課後児童クラブを同一施設内に置くことで，「地域参画型の子育て教育環境を創る」というコンセプトの実現が期待できたため。

### ◆統合に至るまでの過程

- ・調査研究対象校の統合を決定するまでの期間：1年4ヶ月
- ・統合を決定してから開校に至るまでの期間：2年8ヶ月
- ・開校年度：平成30年度
- ・統合の状況：旧北房町の4小学校を統合し，北房小学校として開校。同一敷地内に子供園，放課後児童クラブも併設。

### ◆統合による学校の教育環境の変化の状況

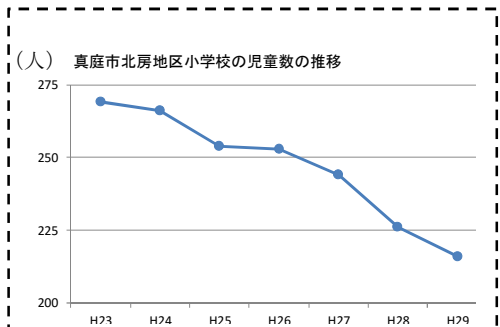
- ・児童の通学状況の変化…スクールバスを5路線運行（3台），スクールタクシー3路線運行（3台）
- ・施設整備の状況…新設統合のための校舎を建設中
- ・地域との連携…地域住民が学習・体験活動に参画することで，「地域に誇りをもつ子供の育成」に取り組む。

### ◆調査研究対象校の位置



真庭市は岡山県北部で中国山地のほぼ中央に位置する。平成17年3月31日に9町村が合併して誕生。新設統合となる北房小学校は，旧北房町の旧至道高校跡地に建設中。北房小学校と最も遠い旧水田小学校は約5km離れている。

### ◆対象校の児童生徒数の推移



## 4. 本調査研究において取り組んだ内容

### ◆地域住民への説明会

PTA 対象の説明会をはじめとし、地域全体への説明会、ワークショップの開催を通して、地域参画による「北房地域新教育環境準備委員会」を立ち上げた。会議の進捗状況等は準備委員会だよりで広く地域に広報した。平成 29 年度には、建設工事等の進捗について、PTA 及び新入学生の保護者への説明会を実施した。

### ◆準備委員会の設置・協議、検討

平成 27 年 9 月に、円滑に統合を行うため「北房地域新教育環境準備委員会」を設置した。準備委員会は「運営部会」、「通学・地域交流部会」、「学校教育・こども園部会」の 3 部会に分かれ、それぞれ地域・保護者の代表、学校・園関係職員等で組織された。計 25 回開催し、新環境を生かした保育・教育の在り方をはじめ、校名・制服・校章・校歌・PTA 組織、通学支援等について、熟議・検討を重ね決定した。

### ◆スクールバス運行計画の検討、策定経過

「通学・地域交流部会」において、遠距離通学支援について検討した。現地視察を重ね、幹線道路にバス乗降場所を設定するとともに、発着時刻設定のため、所要時間の検証をし、運行案を作成した。

※北房小学校までの各小学校からの距離  
中津井小:2.3km 皆部小:1.8km  
上水田小:1.8km 水田小:4.8km  
H30 年度通学支援対象児童:157 名

※各地区バス乗降場所  
中津井地区:5カ所 皆部地区:2カ所  
上水田地区:4カ所 水田地区:4カ所

### ◆教育課程の検討

学校教育部会・北房教育研究会において、教育・保育目標の設定及び内容の策定を行い、平成 29 年度に一部試行を行った。また、学校行事・郷土学習の調整、時程、授業づくり・集団作りの一元化、校種間連携、地域との連携・協働、体験活動と探求的活動の一体化等を重点に教育課程の編成を行った。

### ◆「めざす子供像」アンケート調査

平成 28 年度に、北房地域の住民を対象に「めざす子供像」を設定し共有することを目的としたアンケート調査を行った。その結果、「優しさ」、「自己実現」、「根気強さ」、「健康」、「郷土愛」と続いた。また、校名・園名や校章・園章も募集を行い、新たな教育環境への期待が大きいことも改めて把握できた。

### ◆交流事業の実施

統合への不安解消と期待の醸成、統合を見通した行動様式の共通理解等を目的に、これまでの「修学旅行」、「海の学習」の合同開催に加え、低・中・高学年それぞれで 4 校合同授業や全校での発表会を行った。また、高学年では、体育や外国語活動において中学校の教師による乗り入れ指導を行った。

## 5. 研究の成果と今後の取組

### ◆交流事業の効果

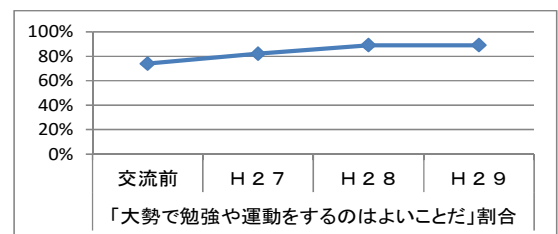
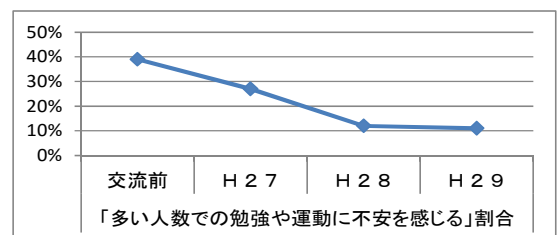
児童対象のアンケートでは、交流事業が進むにつれて、統合による大人数での活動に対する不安が低減するとともに、統合への期待感が高まっているという結果が得られた。

### ◆スクールバスの運行計画の決定

準備委員会での検討及び学校・PTA 要望等により修正を重ねた結果、スクールバスは 5 路線・3 台運行、スクールタクシーは、3 路線・3 台運行とする結論に至った。開校までに実際の運行を試行する予定である。

### ◆コミュニティ・スクールの導入

今後は、これまでの取組で醸成された地域参画の機運を本市で初のコミュニティ・スクール指定につなげる。地域と学校が協働して学校文化を確立していくモデルケースとしていきたいと考えている。



## 6. 学校の統合に課題を抱える自治体へのメッセージ

統合ありきの議論ではなく、児童にとってどんな教育環境が望ましいのかといった「子供たちの教育」という観点に重きを置き、学校・保護者・地域と住民感情に配慮しながら、合意形成を積み上げていくことが肝要である。また、学校統合に当たっては、地域参画型の準備委員会を設立し、部会ごとに進捗を確認、熟議し推進していく必要がある。